

若年層の観光活動の減少要因に関する研究

奥山 忠裕（研究員）

1. はじめに

観光関連の施策が活発に行われる中、若年層の観光活動が減少する、いわゆる「観光離れ」が問題となっている。この若年層の観光離れは観光活動から生じている現在の経済・人口交流に影響を与えるのみならず、そのような若年層が年齢を重ねた後も観光活動を行わないという長期的な影響も懸念されている。

近年、若年層の観光離れについて調査が行われているものの、この問題が過去に指摘されなかったことを鑑みれば、まず、観光を行わない要因がどのような変遷を辿っているかについて分析することが重要であろう。そこで、本研究では、宿泊観光を想定し、まず、観光活動を行わない要因の時系列データを分析し、次に、個票データを用い、各要因が観光を行うか否かの意志決定に与える影響を検証している。

2. 観光活動減少要因の時系列的変化

観光活動の減少要因について検討する前に、若年層の観光活動の現状について、観光への参加率の時系列変化から考察した。20代の観光参加率の減少はよく知られているが、ここでは男女・世代別（10代、20代、30代）について検証した。

次に、観光活動の減少要因に関する時系列データとして本研究では「観光の実態と志向」にある観光を行わない理由を世代別に集計することで1980年代から2000年代における動向を分析した。まず、男女・年齢を問わない理由として、経済的・時間的問題が挙げられた。観光活動が経済や休暇日数に影響を受けやすいという現状を考慮すれば妥当である。また、この二つの理由は80年代以降20代の男女で増加している要因である。もう一つの主たる理由として、「なんとなく」という理由が挙げられた。この理由の回

答率は20代男性で約25%となっており、また、1980年代から2000年代まで一定層存在している。男性では観光することを意識せず、そのまま過ごしてしまう人々が多いことが示唆された。

その他、「家を離れられない」、「一緒に行く人がいない」、「行きたい場所が無い」といった観光活動を行わない要因について、各年代・年齢ごとに整理している。

3. 個別要因の分析

時系列データの分析から、若年層の減少要因をまとめた。主たる理由として、経済的理由、時間的理由および「なんとなく」といった理由が挙げられた。これらの理由は観光活動を行うか否かを分ける理由と考えられる。そこで、個票データを用い、これら理由が「観光をする人」と「観光をしない人」を分ける要因となりうるか否かについて検証した。内容としては、余暇活動、観光以外への消費品目の傾向および婚姻等と観光の関連性について分析を行っている。

また、個票データとともに家計調査等の統計データも利用し、若年層の現状について調査した。たとえば、携帯電話等に支出するために観光に使うお金がなくなるという意見があるが、これは第三四半期に起きている可能性が高いことが分かった。

4. おわりに

観光活動の促進が進められる中、若年層の観光活動の減少が問題視されている。本研究では、若年層が観光を行わない理由とその現状をまとめた。観光を行わない人の特徴の一つとして、余暇の活動の種類の少なさが挙げられる。そのため、観光のバリエーションを広げるとともに、若年層の余暇活動全体を促進する施策について検討する必要があるだろう。